

## 研究テーマ

「A 団地における独居・夫婦のみ世帯に対する戸別訪問活動の事例分析から見る活動を継続させるために必要な参加促進要因」

2018M30005

宮島 優奈

## 要旨

現在、日本は超高齢人口減少社会に突入し高齢者の孤立死や孤独死の問題が深刻になってきている。このような現状に対し国は、地域共生社会に向けて地域住民同士で支え合い地域を共に創っていく社会の実現に向けた取り組みを始めている。実際に、先行研究においても地域における高齢者の見守り活動は支援の必要な高齢者の早期発見、早期対応につながる効果があるという結果が出ている。

本研究では、A 団地における独居・夫婦のみ世帯に対する戸別訪問活動の活動者である大学生と自治会常駐役員に焦点を当て分析を行った。その結果、A 団地において戸別訪問活動は必要不可欠であり、高齢者の生活状況を把握し高齢者の抱える問題や不安を見つけ出す上で非常に重要な役割を担っていることが分かった。しかし、学生にとっては活動をお手伝いしているという感覚があり、「活動が地域にとってどのように影響しているか」や、あるいは「自分たちが地域を支える担い手の一員である」ということに気づけていない学生も多かった。また、現時点では戸別訪問活動を地域住民主体で行うことは困難であると、自治会常駐役員たちは感じているということも分かった。

今回の結果から、現在の活動では地域住民の主体性を奪い地域力の低下につながる可能性も考えられる。地域住民の主体性を引き出すためには、高齢者に対する活動であるからといって高齢者とその活動に携わるメンバー間だけで情報の発信や共有をするのではなく、地域住民全体に活動の情報や活動から見えてきた課題などを共有できる仕組みを作り、「みんなが地域を支える一員」であるという意識をもてるような場づくりを行う必要がある。